

当施設の支援で大切にしていること

社会との
つながり

社会性・自己理解

自主性
の尊重

記憶・遂行・自発性

機能維
持・改善

覚醒・注意

評価を基に支援する

3か月評価

開始時評価

- ・高次脳機能やADLの自発性は？
- ・IADLの遂行？

- ・効果判定
- ・個別訓練継続の可否
- ・グループプログラム検討

病院(回復期)退院

- ・退院前評価(サマリー)
- ・開始前カンファレンス

- **医療との連携** (地域への移行・役割分担)

ADLの評価

- Barthel Index（動作の評価）なら90点以上・・・？



- 高次脳機能障害者のADL上の問題は動作ではない

日常生活の支援（金銭管理）

- 50代男性、脳出血
- 貯金を飲酒・タバコに使い果たし、ローンで借金をしたことで家族が初めて気づいた
- その後は同居の義妹が金銭管理をするも渡したお金をすぐに使い切り、知り合いに度々借金するなどの行動があった。

金銭管理帳の導入



計画的な出費(1日いくら)

飲酒のルール

将来の希望の確認

* 自主性の尊重

自主的に行動するには？

見通しを立てる

計画

計画通りの実行/現実場面に合わせた変更

実行

新たな行動の修正

振り返り

高次脳機能障害者が苦手な一連の流れ

目標: 自発性低下の改善、遂行機能の強化

計画する/予定を立てる

新入社員歓迎

Why
目的

1課の全員で

Who
誰

4月末の金曜日
夕方6時から

When
いつ

Where
どこで

新宿御苑で

What
何

花見をする

How
どのように

食事とお酒を
買って

調理計画/振り返り用紙

調理計画

実施日： 平成 年 月 日 (月)	担当者：
献立名：	エネルギー：() kcal 塩分：() g

【材料と調味料】

材料	分量	調味料	分量

【手順】

	内容	担当
1		
2		
3		
4		
5		

【調理のポイント】

片手作業の工夫	使用する道具 ()
カロリーを控える工夫	
塩分を控える工夫	

【みんなの感想】

1. 味付け	濃かった・ちょうどよかった・薄かった
2. 量	多かった・ちょうどよかった・少なかった
3. かたさ	かたい・ちょうどよい・やわらかい
4. 盛り付け	見栄えよくできた・まあまあだった・あまり見栄えよくできなかった
5. 満足感	満足した・まあまあ満足した・あまり満足できなかった
6. その他	

【反省】

1. 片手での作業	よくできた・まあまあできた・何とかできた・できなかった
2. 衛生面(手洗い)	自主的にできた・人に言われてできた・あまりできなかった
3. 調理作業	自立してできた・人に助けられてできた・あまりできなかった
4. その他	

【参考にしたレシピ】(コピーを貼る)

目黒区高次脳機能障害者支援センター いきいき＊せかんの通所事業

設立年数

- 2005年～自主事業サロンとして開始

事業形態

- 2011年4月～障害者自立支援法の法内事業に移行(自立訓練)

対象者

- およそ40歳未満の高次脳機能障害のある方

定員

- 1日10人

職員

- 社会福祉士・作業療法士等
- 医師(約4か月に1回)

時間

- 月～木 10:00～15:30

自分の高次脳機能障害に対処する

高次脳機能障害の職務上の問題

- ・複数の仕事の情報統合が困難、スピード・正確性にも問題あり
- ・疲労しやすい
- ・高次脳機能障害の自己理解にギャップがある
- ・周囲の理解が得られないことがある

(東京都心身障害者福祉センター 2011)

すぐに就職できる

一般就労できる

仕事になれば
できる

就労に向かう準備が整
わないまま就職活動を
希望することが多い

見えない高次脳機能障害を
理解して行動する

目標設定→グループワーク→振り返り

自己評価

他者評価

自己と他者の比較

目標設定

グループワーク

振り返り

/ ()	▽本日の訓練内容	▽スタッフから指摘された点
	振り返りシート	
	▽本日の目標の達成度	
	到達目標①	
	到達目標②	
	今日1日通して良かったこと・できたこと	

- 高次脳機能障害によって課題となっている行動の自己認識を高める、就労にむけ準備する部分に気づく

意欲への働きかけで社会生活範囲が 広がった事例

- Aさん、60代女性、主婦、夫・長男・長女同居
- 子育てをしながら料理に興味を持ち、友人を自宅に招いて手料理を披露するなど近所でも評判の料理上手であった。また結婚前は美容の仕事をしており、おしゃれできれいに化粧をしていた。
- X年（50代前半）脳梗塞発症、右片麻痺、失語症、失行症
- 発症後は、高級なミキサーや包丁などの料理道具、洋服・バッグなどもう使えない、必要ないと思い全部処分し、何もできないとうつつとしていた。
- X+3年、通所開始、自助具などを使い調理訓練を行うと「片手でもできるのね」という発言が出現した。しかし段取りが悪く一つ一つ指示が必要であった。

- そこで調理の手順書を作成し、必要な調味料・物品などをあらかじめ準備してから行うようにすると、時間が短縮できるようになった。
- ヘルパーを導入し、自宅でもあらかじめ準備しておいた手順書を見ながら家族のために調理をするようになった。
- 次第に「自分で調理の材料を選びたい」と話すようになるも屋外歩行は見守りであり、また移動距離も短かった。そこで電動カートを導入、徐々に一人で買い物に行けるようになった。
- また友人と出かけたり、旅行にも行くようになった。

- 高次脳機能障害（自信がない、見通しがもてない）

作業体験⇒できないと思っていたことができた
（自信回復）

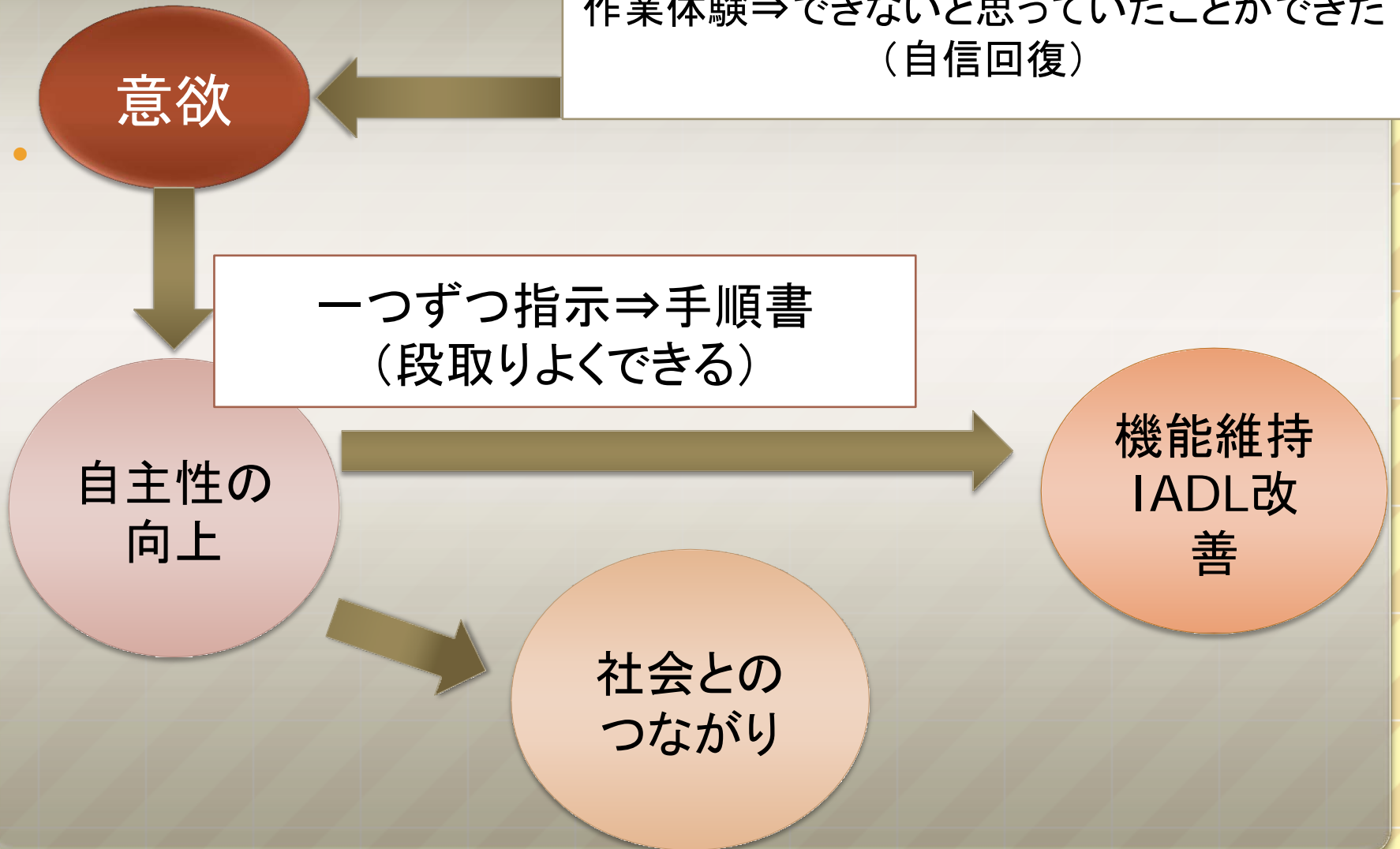
意欲

一つずつ指示⇒手順書
（段取りよくできる）

自主性の
向上

機能維持
IADL改
善

社会との
つながり



地域のトータルサポート



病院

地域



就労

つなぐ



相談

生きがい・就労など個々の
ニーズに合った通所施設

つくる

つなぐ



家族支援

つき
そう

より
そう



関係機関